

ごあいさつ

日頃、皆様には本組合の事業運営に特段のご支援とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

本年も、当JAの経営内容を公開し組合員、利用者の皆様が安心してご利用頂けるよう、ディスクロージャー誌を作成致しましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、人や物の流れが停滞し、世界及び日本の社会経済に対する影響は拡大の一途を辿る状況となりました。これにより、日本国内においても人同士が接点を持つ対面サービスの需要が急減したことで、特に飲食業や観光業などは前例のない規模で低迷し、農業分野においても多大な悪影響を受けました。

こうした中、JAグループは、昨年公表された「JAの自己改革に関する組合員調査」において、9割以上がJAの必要性を認識しているという結果に後押しされつつ、当JAにおいても、更なる自己改革を推し進めるため第七次中期経営計画を策定し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け取り組んで参りました。

令和2年度の事業活動として、営農経済部門においては、第七次中期経営計画に基づく営農Vプラン実践の初年度として、計画の着実な実践と担い手・農業法人組織等に対する営農相談活動の展開を図りました。また、コロナ禍対策として、国、県、市町の補助事業の活用支援を積極的に行うとともに、当JA独自の営農継続支援助成を実施し、農業経営継続の支援を行いました。

金融共済部門では、選ばれつづける金融機関を目指し、組合員・利用者のニーズに即した事業の展開に努め、特にインターネットを活用した商品の提供や出向く体制確立のため金融渉外担当を各支店に配置し資産形成と運用、家計メイン化の提案を展開しました。また、令和3年2月13日発生の福島県沖を震源とする地震被害に見舞われた家屋等の損害調査・共済金支払等において迅速かつ効率的な契約者対応に努めました。

管理部門では、状況変化による様々な制限がある中でも、地域活性化委員会や女性大学、虹色テラス等の協同活動・組織活動を創意工夫のうえ取り組みました。その結果として、宮城県農業協同組合中央会主催の支店協同活動コンクールにおいて3年連続での入賞を果たすなど、高い評価をいただきました。

令和2年度の事業成績については、組合員の皆様が積極的にJA事業をご利用頂いた結果、事業利益は69百万円となり、当期の剰余金は2億27百万円、当期の未処分剰余金は8億69百万円となりました。

未だ新型コロナウイルス感染症について不安視され、農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続きますが、組合員、利用者皆様方の信頼と期待に応えられるよう役職員一丸となり、力強い農業と地域づくりに取り組んで参りますので、今後ともより一層の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年7月

みやぎ仙南農業協同組合

代表理事組合長 舟山 健一